山梨 YMCA　岡島デイサービスセンター
ぶどうの木
《甲斐物産ビル 7F》
〒400-0031 甲府市丸の内 1-21-26　TEL 055-235-5021

山梨 YMCA　デイサービスセンター
オリーブの木
《山梨 YMCA 新会館／グローバル コミュニティ センター》
〒400-0032 甲府市中央 3-10-7　TEL 055-235-8543

公益財団法人 山梨YMCA ご利用についてのお問合せは、上記センター（または E-mail ymca@yamanashiymca.org）へ、ご相談ください。

二つの木

公益財団法人 山梨YMCA
理事長　野々垣 健五

新型コロナ禍の中、山梨YMCAにとって二つ目の介護デイサービスセンターが与えられました。この計画が立ち上がって満5年、本格的な設備の整った施設、「オリーブの木」の誕生です。

私達は2020年11月12日、絶対的リーダー大澤英二先生が天に召されました。先生には手術、治療、そして退院後の2週間という短い間に「オリーブの木」にて、入浴をしていただくことが出来ました。痛々しく痩せられた先生に負担をかけない様に、2分～3分の入浴に全神経を集中して介護にあたってくれたスタッフの皆さん、ありがとうございました。天に召される日が遠い先ではなくやって来ることを覚悟されていた先生に、心地良い沐浴でさっぱりした思いを体験していただくことが出来たと思います。皆さんも、私も、先生には5年、10年と長く利用し続けていただきたかったとの叶わなかった思いが残りましたが、その思いはこれから先に生かしていきましょう。

そして、私共は「YMCA介護チーム」という組織をしっかりと守っていかねばなりません。二つのそれぞれの木がしっかりと自己を守り、利用者、利用者家族の皆様の安全、快適さに配慮し続けることでチームワークの力を最大限に発揮し、活用出来ると思います。二つの木のスタッフの皆様、コロナ禍の中、本当に大変です。毎日がコロナとの戦い、見えないウイルスとの戦いです。功刀先生の教えでもありますが「よく眠りましょう。」そして、備えましょう。私は心筋梗塞発症後37ヶ月の77才、心臓にステントを埋め込まれた、自称「ステントマン」として活動し続ける中で、特に血糖値、コレステロール、体重の三つのポイントに重点を置いて自身の健康管理に努めています。

「二つの木」の利用者の皆様、そしてスタッフの皆様、「やれるかな！！やってみよう！！」と、この世にある限り楽しく、「晩年を万年に」、明るく乗り切っていこうではありませんか！！

ぶどうの木では今

昨年は新型コロナ感染予防対策に、懸命に過ごした１年でした。 ご利用者とご家族様のご協力に感謝申し上げます。

感染防止対策の初めのころに、Jさんは「風邪もひいていないのにマスクなんかつけるの」と不思議な顔で聞いてきました。そのJさんが今ではマスクをつけ、丁寧に手洗いをしてくださっています。

先日パーテーションの新製品を設置したところ透明感があり、前に座っている方がきれいに見えると笑顔で話されていました。横のパーテーションを「やぶせったい」と方言で話されているのを聞き、職員がそっと横にあるパーテーションを外しました。ゆっくりお話ししたかったのでしょうね。いつもと同じ環境で過せることを大切にしています。

今、木彫りアートが8点飾られています。その中でモナ･リザの彫刻をKさんは「素晴らしいわね」と言いながら席を立ち、ゆったりとした表情で見入られていました。アートには人の心をゆさぶる力が備わっていることを感じる日々です。

ぶどうの木管理者　鶴田和子

オリーブの木 ダイアリー

昨年5月にオープンした「オリーブの木」も早いもので8か月が過ぎました。多くの方々のご協力と、何よりも利用者様とご家族の皆様に支えられ新年を迎えられたことを深く感謝いたします。新型コロナの影響により運営をあきらめざるを得ない施設がある中、8名の方と出会うことができました。どの方も尊い日々を重ねられてきた人生の大先輩として教えていただくことの多い毎日です。

１２月にはハンドベルの演奏を聴いたり、子供たちのクリスマス会に参加したり、しめ縄作りをして楽しみました。地域に根差した地域に親しまれる施設としてサービスを提供するようにとの意図で、第一回運営推進会議を開催でき、皆様から貴重なご意見を伺うことができました。

立春を過ぎても朝の冷え込みは変わらず「今日は家を出るのは嫌だな」と思う日もあると思いますが、頑張って支度をして迎えの車に乗っていただく姿に、私たちが元気をもらっています。楽しい時間を過ごしていただけるよう、スタッフ一同今後も努力してまいります。

オリーブの木看護師　中澤かおる

ボランティアに参加して

ボランティア　佐々木小百合

　私は友人に誘われて、月1回「ぶどうの木」に二人で伺っています。「ランチ」「お茶」の用意と片付けで、お手伝いは正味3時間ほどです。私は友人とのおしゃべりが何よりも楽しみな「不良ボランティア」ですが、遊び半分で参加するボランティアにも役目があると思うのです。

　つまり、私たちボランティアは「外部の目」です。「ぶどうの木」の意義と目的を具現化するためには職員同士の切磋琢磨のみではなく、外部の注視と異見が必要です。多くのボランティアの受け入れは、この事業所の覚悟と勇気の表れです。

　ここには、介護事業所にありがちな「慌ただしさ」がありません。なるほど、管理者がおっしゃる「誰が利用者で誰が職員か分からないような」空気があります。「笑顔」があり、「利用者それぞれの生活様式を否定しない、穏やかなふるまいの介助」があります。だから安心安全な居場所になります。設備の方は、狭いし使い勝手も悪いし100点満点ではありませんが。（笑）

　利用者さんも職員さんも昨日と今日では違う。明日もまた違う。その違いを受け入れて少しずつ少しずつ目的に向かっているように見えます。

よろしくお願いいたします

介護福祉士　塩澤絵梨子

　はじめまして。ご縁がありまして昨年10月よりオリーブの木で勤務しております介護福祉士の塩澤絵梨子と申します。利用者様にオリーブの木で快適に笑顔で楽しく過ごしていただけることをモットーとして日々勉強をし学びながら介護職をしております。

　以前は、リハビリテーション専門の病院で看護助手として8年半勤務しておりました。患者様の身の回りのお手伝いや食事介助、排泄介助など一人ひとりの患者様にあわせた介護を提供してきました。当時は介護の資格や知識は持っていませんでしたので、働いていくうちに「介護福祉士の資格を習得したい。資格を習得できれば、より良い介護が出来るのではないか」と考え病院で働きながら実務経験を積み介護福祉士の勉強をしてきました。

　無事に介護福祉士の試験に合格すると「資格を活かし一人ひとりに合った介護を提供したい。寄り添った介護をしたい」という気持ちが強くなりました。その時に友人からオリーブの木の事を紹介して頂きました。見学に行くとアットホームな雰囲気、スタッフの優しさに触れ、私もここで働き自分自身も成長していきたいと思いました。オリーブの木では病院で働いていた頃と違い、送迎や入浴介助は初めてで、最初は私に出来るか不安でしたが丁寧に分かりやすく指導して頂き利用者様への負担の少ない安全な介助方法を身に付けています。まだまだ未熟者ですが安全で温かな居場所になれるよう力を尽くしていきます。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

ぶどうの木ギャラリー

10月8日～11月30日　彩墨画

1月18日～展示中　木彫り

オリーブの木にも利用者様が増えました